

蜻蛉石かげろふのいしは三室戸みむろとより宇治橋うちばしに至る道にあり。「石面いしめん一方に観音の像を彫る」椎しゐが本もとの社は彼方の町に鎮坐し、四阿屋あつまやの観音は此左にあり。浮舟宮うきふねのみやは宇治の北波戸きたはとといふ所にありて、橋姫夢はしひめのうきはしは川の西なり。これは源氏宇治十帖げんじうちじゅうちのうちにして、いにしへより名広く。さればかの物語に、浮舟の君木玉にとられて、平等院びやうどうあんのうしろの木の下に捨られ、あるはうばそくうせ給ひて、薰かゑるたいしやうしゐ大将だいじょう椎しゐが本もとの空しき床をうらみ、中の君のわらびを折て、山のあさりにまゐらせけるとかけるも、皆此ほとりの名蹟にて、物換り星うつりてむかしを慕はれ侍る。